

慶應義塾大学大学院  
2025年度 商学研究科修士課程入試問題

## 分野別試験 商業学

以下の設問すべてに日本語で解答しなさい。

なお、解答の際は設問番号を（設問3については問の番号も）明示すること。

設問1 我が国における大型店の出店に関する法律の変遷と、それに伴う各小売業態の変化について説明しなさい。

Explain the evolution of the laws governing the opening of large retail stores in our country and the changes in retail formats based on these laws.

設問2 ビッグデータの特徴と、そこから導かれる新しいマーケティングについて説明しなさい。

Explain the characteristics of big data and the new marketing derived from it.

設問3 以下の用語に関する設問すべてを、それぞれ5行以内で説明しなさい。

Explain all questions related to the following terms in 5 lines or less each.

3-1 プロスペクト理論 Prospect theory

3-2 考慮集合 Consideration set

3-3 顧客満足 Customer satisfaction

3-4 認知的不協和 Cognitive dissonance

慶應義塾大学大学院  
2025年度 商学研究科修士課程入試問題

## 分野別試験 経営学

解答用紙1枚を用いて、以下の設問すべてに答えなさい。

### 設問1

ポジショニングアプローチ (positioning approach) と資源ベース論 (resource-based view: RBV)、そしてダイナミックケイパビリティ論 (dynamic capabilities view) の主張内容とそれらの理論的関係性について説明しなさい。

### 設問2

企業の収益性 (profitability) と社会性 (sociality) の対立と克服について、フリードマン (M. Friedman) の企業の利益に関する見解とステイクホルダー論 (stakeholder theory) の主張に触れながら論じなさい。

慶應義塾大学大学院  
2025年度 商学研究科修士課程入試問題

## 分野別試験 会計学

以下の設問1～4から二つを選択して答えなさい（例えば、設問1と設問2、設問1と設問3、など）。なお、答案の作成に際しては設問の番号を明記し、一つの設問について1枚の答案用紙を使用すること。

設問1 企業会計原則注解で取り上げられている重要性の原則（principle of materiality）について、問1、問2をすべて答えなさい。

問1 重要性の原則とはどのようなものか、具体的な適用例に言及しながら説明しなさい。

問2 重要性の原則は明瞭性の原則（principle of disclosure）と密接に関係しているが、その関係性について説明しなさい。

設問2 のれん（goodwill）と負ののれん（negative goodwill）について、問1から問3まですべて答えなさい。なお、重要性の原則の適用はないものとする。

問1 のれんの会計処理と表示区分について説明しなさい。

問2 負ののれんの会計処理と表示区分について説明しなさい。

問3 負ののれんが生じるような企業結合が成立する原因を2つ挙げなさい。

分野別試験 会計学

以下の設問1～4から二つを選択して答えなさい（例えば、設問1と設問2、設問1と設問3、など）。なお、答案の作成に際しては設問の番号を明記し、一つの設問について1枚の答案用紙を使用すること。

設問3 以下の問1と問2をすべて答えなさい。

問1 売上高に対する変動費率 (variable cost ratio) を0.4、固定費 (fixed cost) を192,000円とし、(1)、(2)、(3)のすべての問に答えなさい。計算した結果だけでなく、計算プロセスも明示すること。計算上端数がでる場合は、小数点第2位を四捨五入する。

(1) 売上高500,000円のときの限界利益 (marginal income) を計算し、限界利益を計算するメリットを述べなさい。

(2) 損益分岐点 (break-even point) の売上高を計算し、損益分岐図表を書きなさい。

(3) ①目標利益18,000円を得ることができる売上高を計算しなさい。

②このときの安全余裕率 (margin of safety ratio) をパーセントで計算しなさい。

問2 準変動費 (semi-variable cost) について説明しなさい。

設問4 以下の問1、問2、問3をすべて答えなさい。

問1 事業部 (division) ごとに損益計算書を作成している場合、事業部間の取引について振替価格 (transfer price) を設定すべき理由を書きなさい。

問2 事業部に本社費を配賦すべきとする理由を述べなさい。

問3 事業部からのボトムアップ方式で企業全体の損益予算 (operating budget) を作成する場合の課題について説明しなさい。

慶應義塾大学大学院  
2025年度 商学研究科修士課程入試問題

## 分野別試験 ミクロ経済学

<金融・証券論> <保険論> <交通・公共政策・産業組織論>  
<計量経済学> <国際経済学> <産業史・経営史> <産業関係論>

下記の間1～間4の全てに答えなさい。

問1 高級ぶどうの新品種の開発がされたため、平均的なブドウ農家は過去10年に栽培面積を拡大した。その結果、平均的なブドウ農家は10年前よりもより多くのブドウを生産するようになった。このとき、以下の(1)と(2)の両方に答えよ。

- (1) 生産の拡大にもかかわらず、ブドウ農家の収入(revenue)が減少する可能性があることを、需要曲線(demand curve)と供給曲線(supply curve)を使い、図で示しなさい。
- (2) ブドウ農家の収入が減少するための条件を、「弾力性(elasticity)」を用いて導出しなさい。

問2 ある国立公園の中に、全100室の客室を持つ一軒のホテルがある。自然保護のための規制により、この国立公園には他の宿泊施設を建てることはできず、このホテルは唯一の宿泊施設である。さらに同じ規制のため、このホテルは客室数を増やすことはできない。このホテルの1日あたりの平均的な客数(customers)を $Y$ 、1日あたりの労働投入量(labor input)を $L$ としたとき、ホテルの生産関数(production function)は

$$Y = \min\left\{100, \frac{L}{2} - 10\right\}$$

で与えられる。ただし $\min\{a, b\}$ は、 $a \leq b$ ならば $\min\{a, b\} = a$ 、 $b \leq a$ ならば $\min\{a, b\} = b$ という関数である。このホテルは、労働を1単位あたり賃金(wage)  $w = 10$ で雇うことができる。ホテルの客室の価格(price)を $P$ としたとき、通常期の需要関数(demand function)は

$$Y = 200 - 2P$$

であり、このホテルは独占企業(monopolist)として需要関数を考慮した上で労働投入量を決定する。

このとき、以下の(ア)から(カ)に当てはまる数値を答えなさい。

- (1) 客数 $Y = 70$ のときの、このホテルの限界費用(marginal costs)は(ア)であり、固定費用(fixed costs)は(イ)である。
- (2) ホテルの利潤(profit)を最大化する客室価格 $P$ は(ウ)であり、そのときの労働投入量 $L$ は(エ)である。
- (3) 紅葉の時期には、このホテルへの需要は増大し、需要関数は $Y = 300 - 2P$ となる。このときホテルの利潤を最大化する客室価格 $P$ は(オ)であり、そのときの独占の死荷重(dead weight loss)は(カ)である。

問3 川の上流で、企業Sが鉄を $s$ 単位生産し、汚染物質(pollutant)を $x$ 単位排出している。川の下流では、企業Fが魚を $f$ 単位養殖しており、企業Sによる川の汚染物質によって生産費用が増加している。企業Sの費用関数は $c_s(x, s) = s^2 + \frac{3}{2}(x - 10)^2$ で与えられる。企業Fの費用関数は $c_f(f, x) = xf + f^2$ で与えられる。鉄の価格が $P_s = 100$ 、魚の価格が $P_f = 50$ に固定されており、両企業はこれらの価格を所与とする。企業Sは鉄の生産量 $s$ と汚染量 $x$ を決定し、企業Fは魚の生産量 $f$ を決定する。

このとき、以下の(1)から(3)の全てに答えよ。

- (1) ナッシュ均衡(Nash equilibrium)での企業Sの生産量 $s$ と汚染量 $x$ 、企業Fの生産量 $f$ を求めよ。

- (2) 企業 S と企業 F にとって効率的な、企業 S の生産量  $s$  と汚染量  $x$  および企業 F の生産量  $f$  を求めよ。
- (3) 企業 S の汚染  $x$  単位に対し、政府が税  $rx$  を徴収することになった。企業 S と企業 F にとって効率的なピグー税率 (Pigouvian tax rate)  $r$  を求めよ。

問 4 ある個人が生命保険 (insurance) を購入することを考えている。この個人は確率 0.1 で病気になる。保険を購入しない場合、健康な場合の所得 (income) は  $y_g = (10000)^2 = 1$  億円であり、病気の場合の所得は  $y_b = (1000)^2 = 100$  万円になる。この個人の事後的な効用関数 (utility function) は  $u(x) = \sqrt{x}$  ( $x$  は所得) で与えられる。事前に  $0.1K$  円支払うことで、病気になった時に一度だけ保険金 (insurance money)  $K$  円を受け取ることでできる生命保険が販売されており、 $K$  は正の数値を購入者が選ぶことができる。

このとき、以下の (1) から (3) の全てに答えよ。

- (1) 保険のない場合に、この個人が得る期待効用 (expected utility) はいくらか。
- (2) 保険金を支払い後のこの個人の所得を、健康な場合は  $c_g$ 、病気の場合を  $c_b$  と表記する。この個人が保険を購入することで実現可能な  $c_g$  と  $c_b$  の組み合わせの範囲を、 $y_g$  と  $y_b$  を用いた数式または図を用いて表しなさい。
- (3) この消費者の期待効用を最大にする保険金  $K$  を求めよ。

問題は以上です。